

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號二第 卷五第

行發日一月八年六正大

## 論說

營業稅ヲ賦課ス<sup>キ</sup>營業ノ範圍……………法學博士 神戸 正雄  
 純粹資本(資金)ト資本財……………法學博士 河上 肇  
 中壽ノ說(三、完)……………法學博士 財部 靜治  
 現代的保險ノ成立(三)……………法學士 小島昌太郎

## 時事問題

製鐵業ノ獎勵……………法學博士 戸田 海市  
 支那ノ裁厘加税問題……………法學士 木村增太郎

## 雜錄

歐洲戰亂ノ南米<sup>ニ及ホ</sup>影響……………山本美越乃  
 ゆこ・すけらう民族運動(二)……………米田庄太郎  
 福島山形二縣ノ製絲業……………法學士 河田 嗣郎  
 臺灣<sup>人口</sup>統計十年報ヲ讀ム……………文學博士 内田 銀藏  
 戰時利得稅ノ諸例……………法學博士 神戸 正雄  
 學界ノ巨人<sup>シヨ</sup>もらゝ逝ク……………法學博士 神戸 正雄

## ゆび、すらう民族運動 (一)

米田庄太郎

(一)

ゆび、すらう民族運動ハせるびーヲ中心トシテ發達シ、今日ノ世界の大動亂ノ直接原因トナレルモノデアアルガ、同國ガ同盟軍ノ馬蹄ニ蹂躪サレフ、少クモ一時的ニ敗滅スルヤ、該運動ノ指導者ハ多ク難ヲ避ケテ佛國巴里ニ集マツタ。而シテ彼等ハ此處ニ該運動ヲ繼續シテ、大ニ佛

國ノ識者ノ注意ヲ惹起シテ來タ。モットモ該運動ノ委員會ハ英國ろんどんニモ設置サレテ居ルガ、併シ同國デハアマリ盛カンニハ行ハレテ居ラナイ様ニ思ハレル。是レ多分英國ニ於テハ佛國ニ於ケルホド該運動ニ同情ヲ有シ、又ハ之ヲ援助スル人々ガナイガ爲メデアラウ。トニカク今日デハ巴里ガゆじ、すらう民族運動ノ中心トナツテ居ルト思ハレル。随フテ近來該運動ニ關スル佛語ノ著作及ビ論文ハ續々現ハレテ來タ。尙ホ伊太利ハ該運動ニ對シテ直接痛切ニ利害ヲ感ズルモノデアルカラ、巴里ニ於テ該運動ノ盛カンニ行ハルルヲ輕視スル譯ニハ行カナイ。ソコデ伊太利ニ於テモ、亦該運動ヲ論ズル著作及ビ論文ガ、追々ニ現ハレテ來テ居ル。余ハ其等ノ著作及ビ論文中デ、余ノ目ニ觸レタモノニヨリテ、茲ニ該運動ノ一般ト、之レニ對スル歐洲諸強國、殊ニ聯合國ノ輿論ノ一般ヲ説述シテ見ヤウト思フ。

(二) 先ヅゆじ、すらう民族トハ、如何ナル民族ヲ

意味スルカト云フニ、ゆじハすらう語デ南方ヲ意味スルモノデアルカラ、ゆじ、すらう民族トハツマリ南方すらう民族ヲ意味スルノデアル。併シ南方すらう民族トハ特ニ何レノすらう民族ヲ意味スルモノデアルカ。ぶらぐノちえく大學ノ教授るばる、<sup>(1)</sup> 1) であるれ氏ハ、すらう民族ノ研究者トシテ、知名ノ學者デアルガ、同氏ノ著「すらう民族」ニヨリテ見ルニ、すらう民族ハ大別上七部類ニ分タレル。<sup>(1)</sup> 1) ハ露西亞ニシテ、更ニ大露西亞人ト、小露西亞人ト、白露西亞人トニ分タレ。<sup>(2)</sup> 2) ハ波蘭人、<sup>(3)</sup> 3) ハリゆさすノせるびー人或ハそらぶ人、<sup>(4)</sup> 4) ハちえく人及ビするうあく人、<sup>(5)</sup> 5) ハするうえぬ人、<sup>(6)</sup> 6) ハせるば、くるあつ人、<sup>(7)</sup> 7) ハびゆるがる人デアル。然ラバ此等ノすらう諸人民中デ、何レノモノガ、特ニ南方すらう民族ト稱セラレルカト云フニ、若シ南方ト云フ語ヲ單ニ地理的ノ意義ニ解スルトキハ、露西亞人及ヒ波蘭人ヲ除ケバ、其ノ他ノすらう民族ノ大部分ヲゆじ、すらう民族ト稱シテ宜イノデアルガ、併シ此ノ場合ニ南方ト云フ語ハ、單ニ

(1) Lubor Niederle, La race Slave. 2e édition. 1916 Revue international de Sociologie. 1916.

地理の意味ヲ有スルダケデナク、更ニ歴史の社會の意義ヲモ加ヘラレテ居ル。びゆるがる人ノ如キハ、地理的ニハ最トモ南方のナルすらう民族ノ一分枝デアルガ、彼等ハゆで、すらう民族ノ一部分ヲナスモノトハ認メラレテ居ラナイ。是レ彼等ハすらう民族ト見做サルルヲ好マズ、又所謂ゆで、すらう民族運動ニ反對スルモノデアルカラデアル。而シテ今日ゆで、すらう民族運動ニ於テ、特ニゆで、すらう民族ト稱セラレテ居ルノハ、せるぶ人トくろあつ人トすらうえぬ人トノ三者デアル。サレバゆで、すらう民族ノ概念ハ單ニ地理的ナル民族概念デアルヨリハ、寧ロ歴史の社會的ナル民族概念デアルノデアル。何故ニ其等ノ三人民ノミヲ、特ニゆで、すらう民族ト稱スルカト云フニ歴史の社會的理由ニ就テハ、後ニ説述スルガ、要スルニ今日普通ニゆで、すらう民族運動トシテ知ラルル一種ノ民族の政治運動ハ、せるぶ人、くろあつ人及ビすらうえぬ人ノ合同運動デアルカラデアル。

(三)

雜錄 (ゆで、すらう民族運動(一))

ゆで、すらう民族トハ、前節ニ述ベシ如ク、特ニせるぶ人、くろあつ人及ビすらうえぬ人ノ三人民ヲ意味スルモノデアルガ、然ラバ此等ノ三人民ハ如何ナル目的ヲ以テ、所謂ゆで、すらう民族運動ナルモノヲ起シテ居ルカト云フニ、ツマリ彼等ノ中テ今日獨立ナル國家ヲ組織シテ居ルせるぶ人ノ一部分ヲ政治の中心トシ、彼等ノ全體ヲ結合シテ成立スル一大帝國ヲ建設セントスルノガ、即チ該運動ノ大目的デアルノデア。然ルニ今其等三民族ノ分布シテ居ル地理的區域ハ、せるびー、ぼすにへるつえむらいな、くろあちー、すらうむにー、だるまちー及ヒ其ノ附近ノ諸島、かるにおる、からんちー、南部すちりー、いすとりー、ふいらむ、とりーすと、むりちあ、南方匈牙利ノ一部分等デアルカラ、該帝國ノ領土ハ其等ノ諸地方ヲ包含スル可也大ナル面積ニ亘リ、且ツ人口ハ千三百萬人カラ千四百萬人グラヒマデニ達スルコトナルノデア。尙ホ該運動ノ指導者ノ主張スル處ニヨレバ、ツマリ澳大利匈牙利帝國ヲ解體シテ、其ノ

第五卷 (第二號 一三二) 二八七

中ノ波蘭人、るゝまんに及ビ伊太利人ヲ、夫レ夫レ波蘭土、るゝまんに及ヒ伊太利ニ屬セシメ、又ちえく、するゝあく、入ヲシテ一ノ獨立ナル國家ヲ組織セシメ、而シテゆじ、すらう人民ヲシテ總テせるびー及ヒもんでねぐるニ合致セシメントスルノデアアル。<sup>(1)</sup>サレバ該運動ハ、澳匈國ニトリテ甚ダ危險ナルモノニシテ、澳匈國政府ガ之ヲ壓倒センガ爲メニアラユル手段ヲ用ヒントセルハ敢テ怪ムニ足ラス。而シテ今日ノ世界的大動亂ハ、世人ノ熟知スル如ク、實ニ該運動ト澳匈國政府トノ衝突ヲ直接原因トシテ勃發セルモノデアアル。又上ニ述ベシ處ニヨリテ、直チニ推察サレル如ク、該運動ハ伊太利ニトリテモ好マシキモノデナイ、否ナ該運動ノ成功ハいるれでんた運動ノ目的ノ重要ナル部分ヲ奪ヒ去ルモノデアアル。隨フテ伊太利モ該運動ヲ排斥スル傾向ヲ表ハンテ居ツタ。

ゆじ、すらう民族運動ノ目的ハ、上ニ述ベシ如ク、せるぶ人トくろあつ人トするゝえぬ人トノ大團結ニヨリテ、一大國家ヲ建設セントスル

コトニアルノデアアルガ、今其ノ指導者ノ主張スル處ニヨレバ、此ノ如キ國家ノ建設ハ、實ニ民族の國家主義ノ上カラ見テ、自然的ナ又必然のナ結果デアアルノデアアル。是レ此等ノ三人民ハ本來同一ノ民族ヲ成スモノニシテ、同一ノ政治組織ノ下ニ結合スルニ非ラズハ、到底満足スルヲ得ナイモノデアアルカラデアアル。同一ノ民族ガ相團結シテ同一ノ國家ヲ組織セントスルコトハ、其ノ自然的又必然のナ傾向デアリ、更ニカカル國家ハ最トモ正常的ナル又健全ナル國家組織デアアルト認メラレル以上ハ、本來同一民族ニ屬シ、只外敵ノ壓迫ニヨリテノミ、分裂サレテ居ルせるぶ人トくろあつ人トするゝえぬ人トカ、相團結シテ一國家ヲ建設セントスルハ、當然ナル要求デアアル。之ヲ妨クルハ不正不義ナル背人道的ナル行動デアアル。更ニゆじ、すらう帝國ノ建設ハ、日耳曼民族ノ大野心ヲ抑制シ、其ノ侵略的膨脹ヲ防ク爲メニ必要缺ク可カラザル條件デアリ、隨フテ又歐洲ニ於ケル永續の平和ノ根本的一條件デアアル。ゆじ、すらう帝國ハ一ノ歐洲

(1) Hinkovic, Les Yongo-Slaves, leur Passé, leur Avenir. 1916. Le Programme Yongo-Slave. 1916.

的必要デアリ、永續的平和ノ一條件」デアル。要スルニゆて、すらう民族運動ハ、せるぶ人トくろあつ人トするうえぬ人トノ大團結ニヨリテ、一大國家ヲ建設センコトヲ目的トシ、而シテ其ノ根本的理由トシテ、其等ノ三人民ハ本來同一民族ヲ成スモノニシテ、民族の國家主義ノ上カラ考ヘテ、其ノ政治的統一ハ自然的及ヒ必然的ナル要求デアリ、勢デアルコトヲ主張シ、更ニ其ノ歐洲的利益トシテ、日耳曼民族ノ侵略的膨脹ヲ防止シテ、歐洲的平和ノ基礎ヲ固メルモノナルコトヲ主張スルノデアアル。サレバ其ノ國際的關係ニ於テハ、該運動ハ一種ノ強烈ナル反日耳曼民族的運動トナツテ居ル。是レ恐クハ該運動ガ佛國ニ於テ殊ニ多クノ同情者、援助者ヲ有シ、今日巴里ガ該運動ノ中心トナツテ居ル所以デアラウト思フ。但シ他民族ニ壓迫サレ、虐ケラレテ居ル民族ヲ救フト云フ佛國傳來ノ人道主義的精神ノ與ツテカアルコトモ疑ハレナイ。併シ余輩ガ社會學上カラ考察シテ殊ニ興味ヲ感スル問題ハ、すらう諸民族中特ニせるぶ人トク

ろあつ人トするうえぬ人トノ三者ヲ以テ、ゆて、すらう民族ト稱スルガ如キ特別ナル一民族ヲナスモノト見ル、該運動ノ理論的根本思想デア。ソレデ特ニ此ノ思想ニ就テ次號ニ尙ホ少シク論述シテ見タイト思フ。(次號完結)